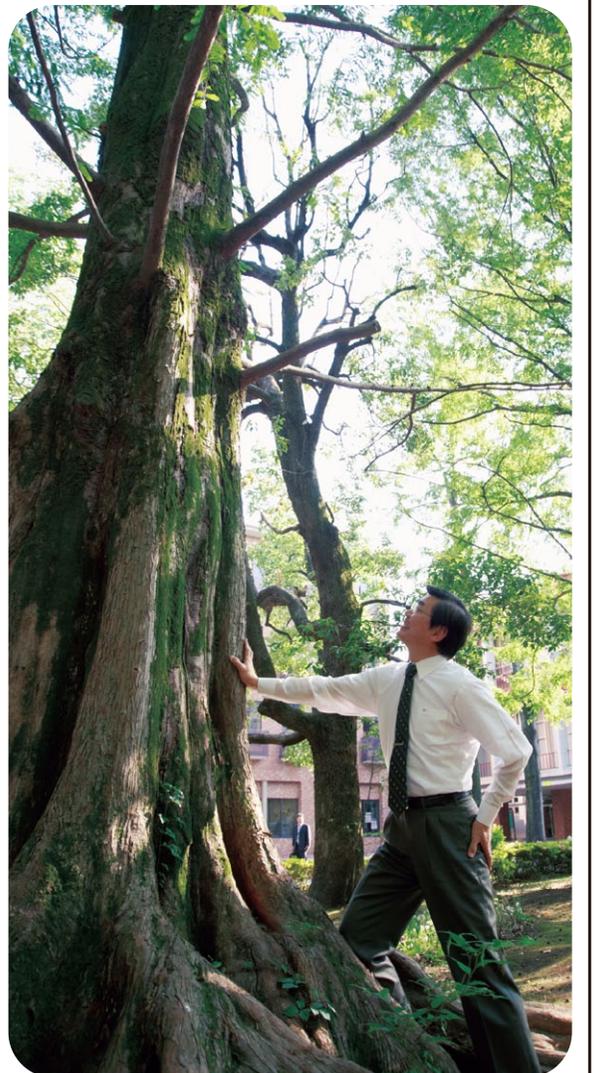


# 植物学がオモシロイ!!

鉢植えの花、校庭や公園の木々、森や林。様々な場面で私たちの暮らしを彩る「植物」は、魅力的な学問のテーマでもあります。数ある植物学のなかから「造園樹木学」を専門とする、濱野周泰教授にお話を伺いました。



東京農業大学世田谷キャンパスにて

## 造園の仕事はクリエイティブ

「植物は動物に比べると動きが少なく、おとなしく見えるかもしれませんが、花の色や形を見る、葉が風にそよぐ音を聴く、花の匂いを嗅ぐ、実を味わう、葉の質感に触れるといったように、五感で楽しむことができます。これは植物ならではの魅力です」と濱野教授は話す。

間には大きく分けて、植物の分類、生理、形態、生態を研究する「純粋植物学」と、農学や林学などのような「応用植物学」がある。このうち濱野教授が専門とするのは、応用植物学の一つである「造園樹木学」という分野だ。

その場所を訪れた人を感動させる「しかけ」を作ることが大切だという。「例えば、季節ごとに違う景観が楽しめるようにしたり、その土地の歴史に縁のある樹木を使ったり。造園の仕事はとてもクリエイティブなんです」と濱野教授は説明する。

## 生命力あふれる植物が教えてくれること

### 鎌倉・鶴岡八幡宮の大イチョウ再生プロジェクト

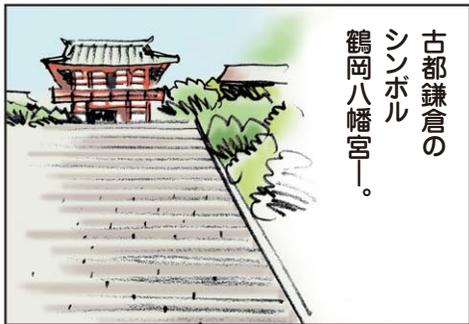
つた。今年3月、観光地としても有名な神奈川県の大イチョウが、強風により倒伏してしまっただのだ。ご神木として何百年もの間人々から親しまれてきた大イチョウ。元の姿には戻せはしないまでも、その命を再生させようと立ち上がったのが濱野教授だったのだ。

10〜15センチほどに切り分け、専用の土を入れた箱に挿して発根させ、苗木を作るものだ。挿し木は約400本行い、発根が確認できたら畑に移し、さらに大きく生育させるとい

ころで切断し、株だけにした根元部分を移植する方法だ。いづれも、大イチョウという一つの個体から同じ性質をもった個体を創る、いわば「クローン技術」だ。

「巨体」です。その身体を維持するだけのエネルギーを自分で光合成して作れるかが問題ですが、イチョウは非常に生命力の強い木といわれています。再生は90%可能でしょう」という答えが返ってきた。

「僕がこの分野を志したのは、中学時代に各地の山を歩いて、様々な表情をみせる樹木に魅了されたことがきっかけでした。でも、道路脇の雑草のような植物でもいいのです。彼らのたくましさは、『自分で限界を作ってはいけない』と教えてくれているようです。つまり、植物を好奇心をもって見つめることが一番ですね」



古都鎌倉のシンボル 鶴岡八幡宮。



境内の大イチョウはご神木として愛され続けてきた。



その大イチョウが強風で倒伏しました



造園樹木学を専門とする濱野教授が再生に動き出しました



お話を聞いた先生

博士(生物環境調節学) 濱野 周泰  
はまの ちかやす  
東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科 教授  
造園科学科 学科長

## 先輩学生からヒトコト



学内で、生け垣などに使われる樹木「ネズミモチ」の自花受粉と他花受粉の相互作用を観察しています。

今後はこの樹木と近縁種の外来植物との交配試験を行う予定。両種の雑種がどんな割合でできるか今から楽しみです!

## 東京農業大学キャンパス見学会

東京農大には、森や樹木、花など、植物と私たちの生活を結びつける多くの学びがそろっています。ぜひ見学にお越しください

厚木・世田谷キャンパス  
8/7(土)・8(日)

オホーツクキャンパス  
8/21(土)・22(日)・28(土)

詳細はHPをご覧ください。  
www.nodai.ac.jp/